



徳島大学長と那賀町長が地域再生をテーマに連携協定を締結
3人の教授によって次の3つのテーマで講座が開かれ、町民を主たる塾生とする41名が受講

- 高石教授 地域の特産品探索と創出の手法
- 山中教授 地域の活性化と協働の手法
- 吉田教授 ICT技術の活用による情報発信と共有の手法

テーマごとに勉強会を開き、他地域の取り組みなどを各教授から講義を受ける

那賀町には広範囲なマップは存在するか那賀町に興味を持ってもらえるようなマップや行ってみたいと思えるようなマップがない

那賀町に興味をわき、行ってみたいくなるようなマップの作成が必要

地域活性化プロジェクトの1つとして、貴重な地域資源を具体的に盛り込んだマップを作成することに・・・

塾生の1人が、観光資源の「水崎廻り」をマップにすることを提案

2008年4月24日 徳島新聞掲載
地域の活性化を目的として、塾生と学生が協力して、水崎廻りのマップ作成に取り組みだしたことが記事となる。

水崎廻り
四国霊場八十八ヶ所の写し場であり、実際に霊場を廻れない人のためと約50年前に水崎の人々によって作られた。全長7kmの参道には、88体の石仏が各霊場の名前と御真言が一緒に置かれている。また参道ではいろんな風景を楽しむことができ、那賀町のみどころの1つになっている。

正御影供
弘法大師空海の命日である旧暦の3月21日正御影供と呼び、多くの人が水崎廻りを楽しむ。参道の途中には地元の人々によるお接待もおこなわれる。「しょみえいく」と読むが、地元の人「おしょめく」と言う。

石仏の位置をGPSで測定、またお接待の内容を調査したり、参道から見える風景などの情報も収集

参道の途中に自生している植物や山菜の名前や地元での呼び名、調理方法などの情報を提供

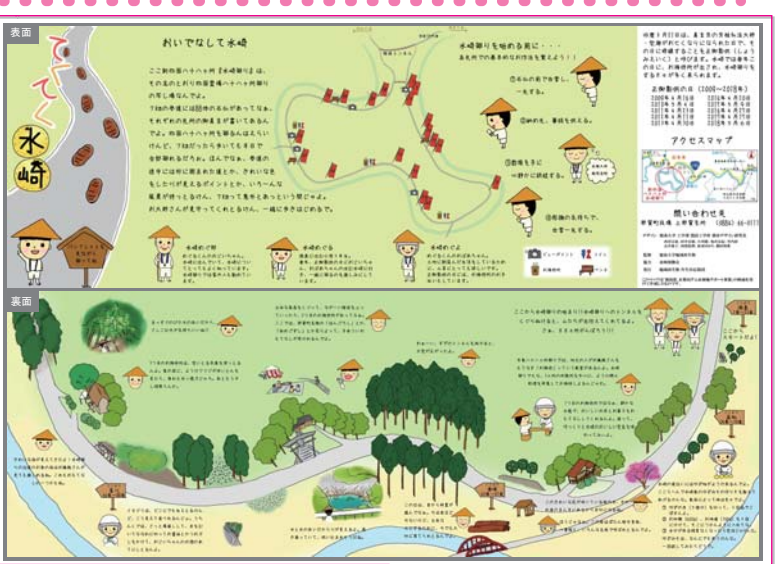
2008年5月1日 徳島新聞掲載
正御影供の日に、水崎廻りを実際に廻り、学生が塾生と現地調査を行い、マップに載せる情報を集めたことが記事となる。

マップの工夫ポイント
親しみやすく水崎らしさを出すことを目指して・・・

- キャラクターの設定
水崎家が水崎廻りを廻るストーリーで進んでいく。水崎家とは、学生が子供からお年寄りまで親しみやすいようにと考えて作成したキャラクター設定のこと
- 方言の使用
マップ内の言葉も那賀町の塾生に指導してもらい方言を使った。

数回話し合いを通して、塾生と学生の間で植物などの地域情報の確認や表現方法について議論し、マップに載せる内容を具体化していった。また、歩きながらも見やすいようにマップの形状を蛇腹折りにすると、ページを捲るごとにストーリーが進むように構成を工夫することに決まった。

マップのコンセプトは、
“見て楽しい、持って廻ると更に楽しいマップ”に決定



那賀町水崎廻り散策マップによる地域づくり

徳島大学 大学院 先端技術科学教育部 知的力学システム工学専攻 建設創造システム工学コース
都市デザイン研究室 修士1年 竹内 彩 西部 絵理 板東 ゆかり

地域の活性化の第1歩
今回、水崎廻りマップを作成したことによって2つの効果が得られた。

2009年4月 新聞、テレビ報道

2009年4月 アンケート調査 (正御影供の日)

2009年2月 マップの配置

2009年2月 新聞報道

マップ自体の効果

●水崎の宣伝
「てくてく水崎」が新聞にも取り上げられ、今まで注目されていなかった水崎廻りの魅力を町内外に広めた。また、那賀町役場や町内の観光施設、直売所などに配布することで、水崎廻りに興味をもってもらい、初めて水崎廻りに訪れるきっかけになった。

●水崎の魅力の再発見
以前から水崎廻りを知っていた人でも、水崎廻りの新たな魅力の発見につながるツールのひとつとなった。

2009年4月16日 TV報道 (フォーカス徳島)
塾生や学生が水崎廻りのスタート地点でマップを参照者に呼び、見ながら廻ってもらうように促している様子が報道された。

2009年2月28日 徳島新聞掲載
マップが完成し、役場などに配置したり、HPで見ることが出来るようになったことが記事となる。記事には、マップの内容とともに、那賀町役場上那賀支所の問い合わせ先も掲載された。

マップ作成の効果

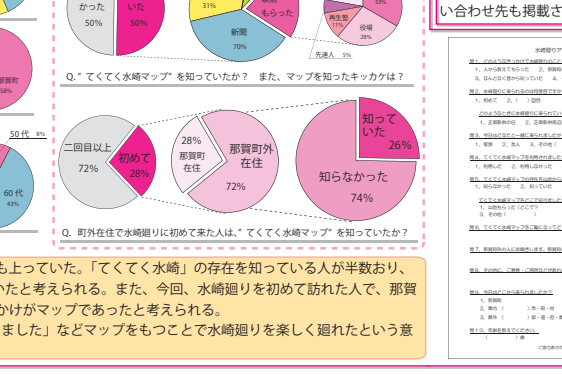
●塾生の地域への愛着の深まり
水崎廻りのPRのCDを作成した塾生もあらわれるなど、学生と共にマップを作成したことで、塾生が刺激を受け以前より積極的に活動に取り組むようになった。

●塾生外への波及
自分にもできることはないかと考え、ポストカードを使ったお接待や自分のブログで水崎を紹介するといった行動に移すなど、塾生以外の一般の人へも波及した。

●二次宣伝効果
新聞の特集記事で、水崎を紹介する同じようなマップが作成されたり、水崎がテレビで取り上げられるなど、那賀町内外問わず、水崎が注目されるようになった。また、塾生と学生がマップを作成したことがきっかけで水崎が注目されるようになった。

2009年4月17日 徳島新聞掲載
「てくてく水崎」を持って廻っている参拝者の写真とともに、水崎廻りの正御影供の様子が掲載された。

マップがきっかけで水崎に!
散策マップを知っていた人は、全体の約半数にも上っていた。「てくてく水崎」の存在を知っている人が半数おり、新聞やHPなど情報発信が効果的に行なわれていたと考えられる。また、今回、水崎廻りに初めて訪れた人、那賀町外に在住している人の約3割の、訪れるきっかけがマップであったと考えられる。「ほのぼのとしたマップが見やすく、楽しくなりました」などマップをもつことで水崎廻りを楽しみ廻れたという意見も得られた。



5000部を配布!
完成したマップをどこに置いてもらうか検討した結果、那賀町役場、那賀町内の観光施設、道の駅「わじき」、那賀川の駅、徳島市内の観光施設などに置くのがよいということになり、塾生が分担して置いてもらえるように交渉することとなった。また、那賀町のホームページでも、マップを見られるようにしてもらった。

その他、3月29日に徳島市内の日曜日「わくわく市」でも、学生がマップの配布を行なった。

